

各会議等の実施状況報告について	提出日	令和3年3月17日
	担当課	社会教育課
<p>会議名称 第1回 湖西市生涯学習推進協議会 開催日時 令和3年2月1日(月) 13:30～15:35 開催場所 市民活動センター2階 大会議室 出席者 委員:8名 事務局:4名 【計12名】※傍聴者なし</p>		
<p>1. 開会 2. 教育長あいさつ 3. 委員自己紹介 4. 協議事項</p> <p>(1) 生涯学習推進に向けた提言事項について(事務局説明)</p> <p>委員:西部、北部、南部の生涯学習講座の企画は、それぞれのセンターで行うのか。 事務局:そのとおり。全体的な取りまとめは西部地域センターが行っている。コロナ禍において何とか対策を講じながら、少しでもやれるものやっいていこうと考えている。このようにしたらどうだろうというご意見があれば、よろしくお願ひしたい。</p> <p>委員:ここねっとタオのプーさんの活動で、12月のコンサートがオンラインで行われた。プロの公演もオンラインでやっている時代なので最先端をいっているなどと思う。文化協会も出来るイベントが少なくなっているの、ノウハウや最先端のことを教えてほしい。</p> <p>委員:自分達も何も出来なくて詰まらないけど、お母さん達も詰まらなかったり、寂しい思いや悩んだりしていたのではと考へ、去年の早い時期に動画配信をするようにした。配付したチラシのLINEに登録すると、手を使った遊びやお料理などの3分程度の色々な動画が見られる。コンサート配信は費用もかかるため凄く悩んだが、寄付をお願いしたり、各種団体から援助いただき、無料配信で行った。再生回数は861回までなり、私達も演者の人達も嬉しかった。やってみないと分からないことが多いが、やってみて良かったなということも多い。私達が使える会議室に自由に使えるWIFIが常備されていると、此処と何処かの場所を繋いでお話が出来たり、そういったことの練習をする場所にもなり、非常に助かるなど思う。</p> <p>事務局:私どもの生涯学習講座も開催が難しい場合には、オンライン講座みたいなものを取り入れていかなければと考へている。試験的にも、そういった形でやられたので、そのような情報をお互い共有しながらやっいていければと思う。</p> <p>委員:労福協でも、県の労福協を通じての各種セミナーをやっている。コロナの関係でやれてないなかで、今回、何件か開催された講座があるが、どんなことをやって、どんな対策をとったのか。</p> <p>事務局:基本的には密にならない対策をしている。参加者が間隔を空けて、手指消毒、検温も徹底して行い、換気をしながら、国のガイドラインを実践しながら、注意して開催しているというのが実情である。</p> <p>委員:タオのプーさんも10月にイベントをやったが、換気をしたり、時間を短くしたり、人数が少なくなるようにした。本来なら一度で出来るものを半分に分けたり、時間を分けてやっした。従来はチケット制なので、受付の段階では参加する方の住所や氏名などを細か</p>		

く聞かない。しかし、今回は何かあったときには、こちらから連絡出来るようにするために名前や電話番号を聞き、受付の方法が全部変わった。これは継続していった方が良いのか。

事務局：参加者の住所等を特定するのは、二次的な感染を防ぐために、何処で誰が参加されて、保健所が直ぐに連絡をとれるように主催者側として把握しておくべきこととしてやられているので、必要な行為かなと感じている。

委員：文化協会が11月に文化祭を開催したが、そのときの受付は、まず体温を計り、罹ったときの連絡先のために電話番号と名前を書いてもらったが、2～3名断った方がいる。パンフレットを渡すとき、従来は係の人から手渡しだったが、今回は自由に取りってもらおうと形にして、接触が無いようにした。もし、混雑する場合には、スーパーのレジ待ちのように線が引いてあり、その線で待ってもらうことにしたが、そこまで混まなかった。美術展は中止となった。やはり、恐る恐るという感じであった。

委員：今回の受付電話は全て私だったが、参加者達は嫌がらずに住所も電話番号も教えてくれた。自分達のグループでも情報共有せず、私ともう1人の受付の人だけが名簿情報を持っているようにした。個人情報色々言われるので、名簿情報を持っていることが凄く気になったが、無事にイベントが終わり、2週間過ぎて名簿を廃棄できるようになったときはホッとした。こういうことに段々慣れていくものかなと。

事務局：名簿を書く方法も、いつも集まっている団体の場合は一枚の紙にまとめて書いてもらうとか、不特定多数の人が集まる場合は個別の紙で書いて集めるとか、やり方も変えていけないといけないとか。

委員：市民文化講座の関係だが、前年度から蕎麦の講座を北部多目的センターでやっている。1講座全5回を2講座、全部で8名だった。やはり体温を計って、窓を開けて、当然密にならないような形でやった。あと1回あるが、お陰で何とか終了出来そうである。

委員：表鷺津の場合は問診票を作り、1人ひとり書いてもらった。そこまでやらないといけないのかなと思ってしまうが。

委員：問診票は集まったときに書いてもらうのか。

委員：受付で紙を渡す。そこで体温を計り、あとは自身で書いてもらう。帰り際に紙を出してもらう方法をしている。

事務局：他にはどうか。それでは協議事項の1番目については終了する。

(2) 第2次湖西市生涯学習推進計画(案)について(事務局説明)

委員：このアンケート結果は、推進計画に載せるのか。

事務局：載せる。

委員：ある地区が、色んな設問結果で低いと書いてある。このアンケートでは、その地区では年齢別にみると高齢者の割合が多いのかと思う。もっと自主的に高齢者の方が活動していたり、居場所づくりをやっているが、こういうアンケートに対しての意識は少なくなっていると思う。

事務局：アンケートそのものについての意識ということか。

委員：実際には、その地区での活動に参加してみると結構なネットワークがある。ちょっと都会的な地区は、そういう意味での繋がりは非常に少なくなっている。そうすると一概に、

その地区が低いとは言い難い。そういう意味で先入観にならないようにして欲しい。

事務局：1つの提案として、居住地別を載せないという形は如何か。

事務局：今回の計画を作るうえでの表現の仕方として、地区の名前を消して地区AとかBという形とか。

委員：そう、大きく捉えて見ないといけない。ただ、もしこのまま出していくとなると。

事務局：地区同士の比較という意味で出していく訳ではないが、そのようなイメージを抱かせる可能性はあるので、表現として地区を抜く方向でさせていただきたいと思う。

事務局：先程申し上げた案として、地区名をA地区やD地区として、グラフやコメントの箇所も修正するという形で。

委員：地区名を出した方が分かりやすい。だから、断りを入れておくことも要るかなと。そうすれば、ここの誤解も和らぐが、このままでは。

事務局：断りと入れるというと、このグラフの中に一寸文言を追加してと。

委員：拘らないが。

事務局：ある地区が良くて、別の地区が悪いか、そういう言い方になっているので。

事務局：報告書10ページに書いてあるように、ある地区が最も高く、別の地区が最も低かったという表現が書いてある。この表現を改めて、もう一回確認いただくということで検討させていただく。

委員：そうですね。

事務局：ある地区が凄く悪いみたいに見えてしまう。

事務局：先程の回答率とか、その辺の部分もあるとは思う。

事務局：次回の計画は、前回のものと基本的な差は無いように思えるが、どうか。

事務局：基本的には大きく変わっていない。5年後も今やっている事業を継続していけるように、大きな変更をせず、そのまま継続していきましょうという思いで作っている。

委員：前回の計画と比較すると、今回の方が良い。前回の計画は「自身と取り巻く社会や環境の変化に対応するために学ぶではありません。」が入っているが、以前から違和感があった。今回は抜けているが、その辺りの変化は。

事務局：大きな変化ではないが、「自己を豊かにするため、資格取得や仕事のための勉強だけが全てではない」という考え方から、このような文言にした。

委員：表現としては無い方が良いと思う。それと、資料の4ページ目「成長、充実を促す学びの還元」というところで、「還元し、継承することを願っています」と思いが書いてある。

事務局：先程の学習と還元は、計画の3～4ページのところで宜しいか。

委員：そのとおり。4ページの「願っています」となっているので、それは生涯学習の目標の表現としてはどうか。それと、5ページ目の政策目標が参加者数であり、これが目標になるが、学ぶことというイメージが強いかなど感じた。私どもの理解として、講座の参加者の目標も大切だが、施設を利用する人数を1つ目標にすると良いのかなと。

事務局：そのような案も考えたが、コロナ禍で利用者そのものが減少しているため、目標値として設定が非常に難しいという実情もある。

委員：コロナ禍で何とか下がる要因もあり、長期的には下がっているかもしれない。そうすると生涯学習全体の活動が活発ではなくなる。そういう数値も捉えていくと良いのかなと。目標としていくかどうかは別として。

事務局：生涯学習施設の利用者を一つの目標として捉えてはとのご意見をいただきましたが、その辺りの考え方はどうか。色々ご意見があろうかと思うので、ご意見をいただければと思う。

事務局：この目標500人というのは、例えば西部地域センターや北部、南部などでやっている生涯学習講座に500人参加することで、今は413人ということか。

事務局：はい。実際に実践している講座の人数も増やしつと。

事務局：人数が書いてあるということだね。例えば市民講座も入っているのか。

事務局：この中には入っていない。

委員：社会教育課の講座ということだね。

事務局：生涯学習講座として、社会教育課が講座としてやっている西部、北部、南部のものとプログラミング講座等が入っている。

委員：アンケートの結果から見ると、生涯学習を行っていないという方が半数いらっしゃる。出た人に対しては満足している人の方が少し多いので、何かしらの興味があったり、何時でも出られるようなところを提供すれば、出てくれるのではないかなど。そのなかで先程の施設利用というのは、施設に集まれば自ずと増えていき、施設に集まらないでも次回アンケートをとるときの参加人数が増えていくのかなど。そういった方向でいけば良いのかなど。

事務局：他はどうか。生涯学習講座の参加者として500人はそのままとし、2番目の目標を施設利用者にしていくことでよいか。

委員：生涯学習の実施率というのは、どういう意味か。

事務局：市民にアンケートを実施して、1年間で何らかの形で学習行為をされた方と回答した割合である。

委員：市民の、ということか。

事務局：そう。一般市民の方を無作為抽出したアンケート調査となる。

委員：もうちょっと、文章が分かる方が良い。

事務局：意味が間違えてしまうので、市民アンケートの結果50%をと。1番の500人は市民アンケートではないのか。

事務局：1番は違う。

事務局：そこが間違えてしまう。

事務局：何をと分かるようにしておいた方が良い。

事務局：この部分を施設利用件数に変えてはとの提案であったが。

委員：目標は変えなくて良い。むしろ私達が考察のベースにしたいと感じた。

事務局：今の目標の表現は分かりづらいので、1年間での個人の生涯学習の実施率に「アンケートの実績に基づく」という言葉を入れることで宜しいか。それとも先程提案があった施設利用者数に変えた方が宜しいか。今の一年間の生涯学習の実施率ということで、アンケートに基づきという表現に整えることで宜しいか。

全委員：頷く

事務局：他にはどうか。今日いただいたご意見をまとめ、反映させたものを後程お送りし、ご確認いただきたいと思います。それでは協議事項の2番目については終了する。

(3) 各組織・団体における生涯学習の取組事例について

委員：先程、文化協会の今年度の活動の話があったが、コロナの関係でイベントが出来ないだけでなく、練習する場や教室も開かれないような状況が続いている。家に居ることに段々慣れてきて、出るのが億劫になっている。何かイベントや目標があると、参加するには練習しないとイケない気持ちや意欲が湧く。しかし、そのイベントや目標自体が無くなってしまうので、家に居ついてお稽古に出てくるのが面倒くさいという負の連鎖になってきてしまう。来年度、文化協会の会員の数が少なくなるのではと、文化や芸能という火が消えてしまわないかと危惧がある。色んな意味でコロナに打ち勝ちながら、文化や芸能で活気のある街に、また成っていききたいなという願いのようなものがある。

委員：草染はニーズが凄く少なく、今年度は南部構造改善センターのセンターまつりも中止となり、発表や作品を出す機会が無い。新所原の喫茶店で発表する機会があったので、そちらには出した。そのように1年に1回でも発表する機会があると、皆のやろうという意欲が湧くと思う。老人福祉センターで草染をやったときに、続けてやりたいという方が3人程いて、団体に入ってもらった。やりたいなという人はいると思うが、今はそういう活動が出来ない。今は、通常の南部構造改善センターの活動だけになっている。

委員：写真をやっているが、コロナの関係で各地へ行けなかったので、文化祭や美術展に出す写真が無い。以前撮った写真で良いものがあればと選んで出した。他のクラブでは、絵や書道などは自宅でも出来るので、描いて出品したいという気持ちがあったのかなと思う。私は写真が出来なかったが、蕎麦打ちの趣味があり、知人に蕎麦打ちの先生がいるので、文化協会の市民講座で講習をやることが出来た。コロナ対策については、人数的には風通しを良くしていけばと考えている。

委員：静岡のライフサポートセンター静岡でのセミナー関係で収納セミナーや、浜松労政会館での乳がんで妻を亡くされた方の講演や、食品会社さんの野菜を楽しむ会などを募集したが、コロナの関係で中止となった。昨年度、労福協湖西では色々と計画したが、コロナで出来なかった。今年は出来れば良いかなと思う。

委員：料理の教室は、コロナで出来る時が限られてきたが、一部は去年の夏過ぎから始まった。現状は1班ごとに作ってもらい、それを持ち帰ってもらう。今までは、まとめて1品作って、それを皆で分けることもあったが、今は全く無い。定員の半分の人数でやっているが、教室自体は減っている。今後、例えば南部の会議室がWIFIで繋がるようになっていくのなら、高齢の方も多いので、使い方を皆でやっていき、それでお家でも出来るようになると思う。

委員：ここねっとタオのプーさんも殆ど活動をしていない状態だったが、10月の「英語でバスボム作り」は出来た。また、オンラインメッセージ動画を計画しており、講師の先生達に集まっていたが、3月に先生達と子ども達の交流の場になれば良いと考えているが、前日に中止となるかもしれない。出かける癖が出来ることは恐ろしいことだなと思う。何か出来る方法を探して、少ない人数で出来るならば、少ない人数を何箇所かに設けていけば、何とかなっていくと思う。ついていくのが大変だが、やっていけば何とかなる。そんな環境を皆で作っていただけると思う。

委員：私どもは、本年度は1つだけ公開講座をやって、他は全部中止になった。コロナ前から3～4年続けて同じ先生にお願いしてきたが、受講者が固定化されている。皆さん地元

の方で積極的に参加される方である。そのなかで最近仲間に入っていた方もいる。切っ掛けがあれば、地域で活動できる人はいると感じた。企画としては、9月に健康フェスタのような企画をしようかなと。それを毎年継続していきたいと。

委員：私は広報を見たり、声かけられたりして参加していく。近くて安くて、人と繋がれるところを楽しんで、出来るだけ出るようにしている。高齢者の生き甲斐ではないが、今日は今日行くところがあってと、色々参加している。そういう場が、とてもありがたいなと思う。

(4) 意見交換

委員：蕎麦打ちの講座について、5回コースで参加者が4人や8人と少人数で対応されるが、講師料や施設の使用料などの収支管理は4人や8人でもやっていけるのか。

委員：やっていけると思う。先生に相談したら、それでやりますと言いますので。自分はお手伝いとしてやらせてもらっている。

委員：参加料はいくらぐらいか。

委員：受講料が6千円と、材料費が2千5百円かかる。その場で蕎麦を自分に打ってもらって、1人前ずつ茹でる。茹でたものを、その場で直ぐ食べないと味が落ちるので、密になって食べることがない。その辺りは安心している。

委員：地元の施設にも調理室があるから、その活用を皆で色々と考えている。

委員：蕎麦の先生のところに鉢が4つある。それを8人でやると1グループが待っていることになり、時間が後ろに延びて、もうちょっと長く時間が欲しくなる。4人だとその辺りが出来るのかなと。

委員：なるほど、ありがとうございました。

事務局：あとはどうか。それでは、ここで協議を終了する。

5. 閉会